

虹の大樹

JAさっぽろコミュニケーションマガジン
「にじのたいじゅ」

2026年
2月号
NO. 326

協同組合という
虹のもと、
大都市に深く
根を張りそびえる
大樹のような
JAで
ありたい――



今月の特集

令和7年度 第2回地区別懇談会 Q&A SAPPORO PRIDE 都市農業の誇り、未来へのバトン

コムズファーム、寒じめほうれん草収穫の様子
Photo by SOGA Takahiro



「待つ力」が育む共生の輪

——コムズファームが繋ぐ農業と福祉、地域の未来

石狩地区 ^{たけのうち ひさし} 竹ノ内 久さん

冬の厳しい地吹雪が舞う、石狩市花川。農業と福祉の狭間で揺れながら、違いをまるごと受けとめ辿り着いたのは、「人が育つのを待ち、人とともに成長する」覚悟だった。コムズファームは、人が集い、土に触れ、誰もが自分らしく生きられる、生きる力の原点となる場所だ。

理想と現実の狭間で 見つけた「待つ力」

石狩の肥沃な土壌に根ざすように、木造の温もりが漂う「コムズファーム」が佇んでいる。ここは一級建築士で地域活性化コンサルタントの竹ノ内さんが、自ら設計し、素材を選び抜いて建てた就労継続支援B型事業所だ。

「時間が経つと木が灰色に変わり、壁にしみが出る。だから、わざと塗装しないんです」と竹ノ内さん。

かつては理論や数字、機能美を重んじる設計の世界で生きてきた。しかし、関西の水耕栽培農場で障がいを持つ人々が一粒の種に注ぐ情熱や、純粹に農業に打ち込む姿に心を打たれたのだ。「北海道でもこのモデルは根づく」と確信し、2013年にコムズファームを設立した。

しかし、現実には設計図通りには進まなかった。農業と福祉のプロを揃えたものの、最初の数

年は試行錯誤の連続となる。成果を求める「農業」と、歩みに寄り添う「福祉」の間に本質的なズレがあった。

昨日100できたことが今日は10しかできないこともある。思うように進まない現実直面し、悩む日々もあったが、竹ノ内さんは「人が育つのを待つ」という覚悟に辿り着いた。

冬の厳しさ

多様な手仕事が生む成長

北海道の冬は農業にとって閉ざされた季節だが、コムズファームのハウスには生命力を纏った青々とした「寒じめほうれん草」が育っている。取材に訪れた日も、利用者と職員が交わす穏やかな会話や、作業の合間にこぼれる笑顔が印象的で、厳しい寒さの中にも、温かな空気が流れていた。

あえて暖房を使わず寒さにさらすことで、ほうれん草は糖分を蓄え、甘みと肉厚な食感が生まれるのだ。厳しさがあるから



1. 技術指導から日々のサポートまで、ワンチームで取り組むコムズファームの職員。2. 恵みを象徴する葉と力強い根。地域に根ざし、共に成長したいという願いを込めて。3. 収穫から加工、そして食卓へ。竹ノ内さんの娘・なつみさんが愛情込めて作る利用者の昼食も楽しみの一つ。4. 冬の仕事を作的ため水耕栽培を導入。一年中新鮮なレタスをお届けできる体制を構築している。

こそ美味しくなる。その姿は、ここで日々を大切に働く人々と重なる。

「働く人がいる限り、年中働ける場所をつくりたい」という竹ノ内さんの想いは、雪の重みからハウスを守ろうと雪かきに励む、職員と利用者の献身で支えられてきた。

ここでは個人の特性が誰にも代えがたい「能力」として尊重されている。対人関係が苦手な人は黙々と土に向き合い、パッケージ作業でセンスを発揮する人もいる。30種類以上の作物を育てることで多様な作業が生まれ、個性の違いがパズルのピースのように組み合わせられていく。

福祉農業の真骨頂は「たくさんの人による丁寧な手仕事」だ。機械では代替できない一株一株への慈しみ。そんな丹精を込めて育てた野菜が、誰かの「美味しい」という笑顔を生んでいく。この経済活動の確かな手応えが、利用者の自立への誇りを支えている。

地域と繋がる、命の循環と共生の輪

コムズファームの「循環」は出荷だけでなく、育てた野菜は

利用者の昼食にも使われる。自分たちの仕事で命を育む実感が、働く喜びと生きる力を結びつけているのだ。対話を重ね、ともに歩む毎日を積み上げ、利用者も職員もたくましく成長し、今や職員9名、利用者32名が活き活きと土に触れている。

「農業は人間のDNAに刻み込まれている。それは生きていく上での原点ですね。福祉農業だからこそ、楽しくなければ意味がないですから」と竹ノ内さんは語る。

月2回の直売会に合わせて開かれるカフェには、利用者の家族や地域の先生、近隣住民が集う。福祉施設の枠を超え、畑を中心に地域コミュニティが育まれている。

作業する本人が楽しいと思わなければ押し付けになる。楽しんで先に、利用者が次のステップを目指す意欲が生まれると信じている。

答えのある世界から少し距離を置き、丁寧な手仕事と互いを認め合う温かな眼差し。コムズファームで生まれた「共生の輪」は、静かに波紋を広げる水面のように、石狩の町と私たちの心を優しく潤し続けている。

令和7年度

第2回地区別懇談会 Q & A

11月19日(水)から25日(火)にかけて、全14地区で地区別懇談会を開催いたしました。各懇談会には、常勤役員および参事、各室部長が2班に分かれて出席し、令和7年度の仮決算事業報告を行なった後、ご出席いただいた組合員の皆さまから貴重なご意見やご質問をいただきました。

内部監査部門

Q1 監査法人に監査を依頼しているのであれば、監事8名体制は多いと思われるので、少数体制を検討した方がよいのではないのでしょうか？

(石狩花畔地区)

A 監査法人による監査は、外部の第三者の立場から組合の財務諸表が正確で公正な会計基準に基づいて作成されているかを確認します。一方、監事監査はJ A内部において、組織全体(役職員の職務遂行や業務・財産の状況)が法令や定款等に従って適切に行なわれているかを監査するものです。このため、多くの支店や経済店をはじめ、各部門を限られた期間内に監査するに

は、現在の体制は必要であると捉えております。

経営企画部門

Q1 計画策定に係るPDCAサイクルとはどのようなものなのでしょうか？

(南地区)

A 中期経営計画の策定においては、地区別懇談会でいただいたご意見やご質問について広報誌によりフィードバックを行なっております。また、計画の実践を通じて、その取組状況を地区別懇談会で報告しており、ご意見やご要望をいただいたものを含めて分析・検討し、次年度の経営計画に反映させて取り組んでおります。このプロ



北札幌支店

セスを毎年度繰り返し返すことで、組合員の皆さまとの対話を通じた経営計画の実践を進めてまいります。

※P(計画)→D(実行)→C(評価)→A(改善)のサイクル

Q2 地区別懇談会で出された意見や要望のうち対応できた案件はどのくらいあるのでしょうか？

(南地区)

A 地区別懇談会にていただいたご意見やご要望につきましては、各部門で

整理し、取り組めるものは即実践するなど、計画策定や事業運営の参考にさせていただきます。

Q3 石狩八幡支店の閉店に関する今後の見通しについて教えていただきたい。

(石狩八幡地区)

A 合併時の総(代)会において、支店廃止日は令和7年4月までに開催する理事会において決定するものとして決議されており、理事会協議の結果、令和10年2月10日を最終営業日とし、閉店することが決定しております。

なお、閉店後は石狩花畔支店の渉外担当者が必要に応じて対応を行なう予定です。また、ATMは引き続きご利用いただけるよう考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

Q4 J Aいしかりとの合併に対する評価や検証は行なっているのでしょうか？

(豊平地区)

A 令和5年10月の合併から2年が経過しましたが、当年6月の総代会において、合併後初となる中期3カ年経営計画と農業振興計画をご承認いただきました。この計画には、合併による効果をいかに発揮するかが盛り込まれて



中央支店

おり、現在、その実践に取り組んでおります。合併効果に対する評価につきましては、経営計画に基づく行動計画の総括として半期ごとに検証を行ない、地区別懇談会にて組合員の皆さまへご報告することとしております。

Q5 SNSの活用におけるLINE公式アカウントの3千件を超える登録者数は当JAとしては多い数なのでしょうか？
(南地区)

A 今年度の登録者数の目標は3,500件と設定しておりましたが、当JAの准組合員数や顧客数などの規模を考慮した場合、まだ多い数ではないと認識しておりますので、引き続きイベントなどを活用して登録者数の増加に向けて取り組んでまいります。

Q6 地域の農業や農産物のPRについて、行政の広報誌などを活用して取り組んでいただきたい。
(白石地区)

A 地域農業や農産物のPRについては、SNSやイベントなどをはじめ、マスメディアとも連携して取り組んでおります。また、行政等が発行する広報誌などへの情報提供も行なっておりますので、引き続き積極的な情報発信に取り組んでまいります。

総務部門

Q1 今年度において固定資産の減損処理を行なう予定はあるのでしょうか？
(平岸地区)

A 現状では、固定資産の減損処理は予定しておりません。なお、金融商品関係においては、金利上昇に伴う有価証券（主に国債）の評価額の低下により、各金融・保険業界でも減損処理を

懸念しております。当JAでも満期を目的とした国債を保有しており、状況によっては減損処理を行なわなければならないことも想定しております。

Q2 内部統制の強化において、コンプライアンス事案の扱いとしている事務ミスとは、具体的にどのようなことを指しているのでしょうか？
(豊平地区)

A 当JAでは、コンプライアンスは法令の遵守だけでなく、日常業務における事務処理の単純な誤り（事務ミス）が重大なコンプライアンス案件に繋がる可能性（事務リスク）があると考えており、事務ミスが発生した場合には、その原因を追究し、事案に対する改善策を講じることで再発防止に取り組んでおります。

Q3 人事異動により青年部の事務局が変わった場合、組織活動に支障が出ないか心配されます。人事異動が必要なのは理解しておりますが、どのような対応を考えているのでしょうか？
(篠路地区)

A 各部会担当の事務局が異動する際には、部会運営や活動に支障をきたさ

ないよう、各管理者が立ち会った上で厳格に事務の引き継ぎを実施しております。また、職員の人事異動については、本人の希望や育成の観点からも重要ですので、引き続き適材適所を考慮した人員配置に取り組んでまいります。

Q4 事業管理費の人件費が非常に少なくなっておりますが、職員数が減少しているのでしょうか？
(平岸地区)

A 職員数につきましては、当初計画より下回る傾向ではありますが、今年度も中途採用を実施しており、今後も新卒採用のみならず即戦力となる中途採用に注力してまいります。

Q5 職員の定年延長は考えていないのでしょうか？
(平岸地区)

A 現在、国の法律では65歳までの雇用が義務付けられております。当JAにおいても、60歳定年後に65歳まで再雇用を行なっております。定年延長については、延長した場合の年齢別の職員構成や人件費等の影響を十分に考慮した上で、今後検討すべき課題であると考えております。

Q 6 子会社の上期事業実績はどのような状況でしょうか？（手稲地区）

A 各事業が順調に推移する中、不動産事業における売買仲介業務が好調であったため、事業収益は計画を大幅に上回って上期を終えております。

金融部門

Q 1 J Aらしい金融店舗づくりとして、全支店での野菜のパック販売の取りまとめを行なってみてはいかがでしょうか？（石狩花畔地区）

A これまで、玉ねぎや加工品の発送取りまとめ販売を行なってまいりましたが、今後も可能な品目について販売部門と協議し、J Aらしい取り組みの一つとして検討してまいります。

Q 2 ネットバンキングの詐欺対策で、ワンタイムパスワードによるセキュリティを行なっていると思いますが、将来的に顔認証などのセキュリティ強化を進める必要があると思うのですが、いかがでしょうか？（白石地区）

A 生体認証システムなど、J Aバンクでは様々な対策を検討・開発している最中と聞いております。引き続き皆



手稲支店

さまに安心してご利用いただけるよう、安全面の更なる高度化をJ Aバンクに要請してまいります。

Q 3 J Aいしかりとの合併により貸付増加となると合併前に聞いておりましたが、数値的な実績はどのようになっているのでしょうか？（琴似地区）

A 元々、J Aいしかりは住宅ローンの実績が好調であり、合併により住宅

ローンの更なる伸長が図れるものと見込まれておりました。今年度は貸出残高全体で前年度末対比約15億6千万円増加しており、そのうち住宅ローンは5億円程度の伸長となっております。

Q 4 貸倒引当金の計上について詳しく説明していただきたい。（平岸地区）

A 一般貸倒引当金の繰入にあたっては過去の貸倒の実績率を基本としなければならぬとする監査法人からの指導に基づき算出しており、現在の引当額は個別引当金を含め2億4千3百万円程度となっております。

相談部門

Q 1 確定申告支援事業における農業の青色申告の手続きについて、全支店にて足並みを揃えた対応を行なっている。ただきたい。（北札幌地区）

A 現在、統括支店とも相談しながら職員の体制的な整備を検討しており、令和8年度申告に向けた体制づくりを進めております。

Q 2 不動産プラザ厚別店は令和8年4月から日曜・祝日を休日とするとの

ことですが、店子から修繕依頼がある場合、休日夜間対応の外部委託業者にすべて対応してもらえるのでしょうか？（平岸地区）

A 外部委託業者は、24時間年中無休で電話対応を行なっております。電話対応だけでは解決できない案件につきましては、緊急出動する体制が整っております。

経済・営農販売部門

Q 1 ミニトマト集出荷貯蔵施設建設に係る入札業者の選定はどのように行なったのでしょうか？（石狩花畔地区）

A 国の補助事業に伴い一般競争入札を通じて業者選定を行なっており、選定は一般公募の方式で行なわれました。

Q 2 農産物の生産振興対策として、アスパラ苗の購入に対する助成や異常気象が続いていることもあり灌漑設備などに対する支援を行なっている。いかがでしょうか？（石狩花畔地区）

A 中期経営計画において、農業振興強化対策（独自事業）を創設しており、次年度に向けて、具体的な支援策を検討しております。

Q3 「農業所得の増大」における販路拡大に対する取り組みと新たな加工品開発とは何なのか説明していただきたい。また、当JAの加工品である「札幌黄たまねぎスープ」の今後の販売拡大に対する取り組みを教えてください。（石狩花畔・北札幌地区）

A 新たな量販店との取引を開始し、品目やロット等の商談を進めており、販路拡大に努めております。新たな加工品の開発では、札幌大球を使用したニシン漬の製造委託を行ない、各統括支店での取りまとめによる販売や、とれのとでの販売も実施いたしました。「札幌黄たまねぎスープ」につきましては、現在とれのとで販売しております生ドーナツやスイートポテトとセット販売ができるような形も今後考えていきたいと思っております。

Q4 農業資材のコスト低減として、ブロックリー共選の包装資材にて発泡箱からフィルム資材の活用を提案いたしました。回答がありませんでした。その後どのようにしましたか？また、共同計算販売をはじめ、農業の生産コスト削減に対する職員の意識を高めていただきたい。（石狩花畔地区）

A 過去にフィルム資材を活用した輸送試験を行ないましたが、発泡箱に比べ、市場からの評価があまり得られなかった経緯があります。しかし、コスト削減は必要不可欠だと思っておりますので、今後も試験的な取り組みを提案していきたいと考えております。

Q5 スマート農業が普及したことにより、農作業の効率化などによる生産性が高まってきており、導入支援を行なっているJAもあります。スマート農業の導入者と未導入者では作業効率などに差が出てくると思われることから、スマート農業の推進に取り組む必要があるのではないのでしょうか？（石狩花畔地区）

A スマート農業の導入については、今後の農業に不可欠なものと考えておりますので、今後も生産者と協力しながら取り組んでまいります。

Q6 米麦乾燥調製施設における小麦の受入時間の短縮などの変更により、限られた収穫期間での生麦受入のため品質低下に繋がる恐れがあるので対応を検討していただきたい。（石狩花畔地区）

A 職員の労働安全に配慮した休憩時間を確保するため受入時間の短縮を行なっておりますが、荷受け状況に応じた臨機応変に受入時間の対応を図っておりますのでご理解のほどよろしくお願ひ申し上げます。

Q7 玉葱選果センターの選別機更新の計画を1年前に聞いているが、その後どのように進んでいるのか説明していただきたい。（北札幌地区）

A 現在、業者より提案された事業費の見積もりを精査しながら内部協議を重ねており、まとまり次第、生産者の皆さまと協議させていただきたいと考えております。

Q8 当年産の玉ねぎは高温干ばつの影響により小玉傾向となっておりますが、どのような販売方法を検討しているのでしょうか？（北札幌地区）

A 共計販売を通じて、道内外市場への出荷を積極的に行なっております。S規格以下についても、一部抱き合わせでの有利販売を実施しておりますが、全体的に小玉傾向が続いており、販売には苦慮しております。担当者が市場と連携しながら取り組んでおります。

すので、ご理解のほどよろしくお願ひ申し上げます。

Q9 農地の売買について、外国人へ農地を売却するという情報が聞こえておりますが、JAとして把握しているのでしょうか？（豊平地区）

A 農地法では農業委員会が農業者として認可するかが重要であり、外国人



新琴似支店

でも農業者と認められなければ農地の売買を行なうことはできません。

Q10 世界的に環境政策が見直しされつつありますが、農業関連のSDGsへの取り組みがどのようになるのか教えていただきたい。
(豊平地区)

A 国内の農業政策では、「みどりの食料システム戦略」が展開されており、化学肥料や農薬の低減をはじめ、CO₂削減に向けた取り組みが進められております。JAとしても同じ方向性に沿って取り組むことを基本とし、地域農業の実態に合う形で無理のない進め方を検討してまいります。

Q11 スーパーにてJAいしかりの段ボールを使用した野菜が売られておりましたが、今後も旧JAの段ボールを使用するのでしょうか？
(手稲地区)

A 合併前の在庫を持っていた生産者が一部使用しておりますが、新規作成分は「JAさっぽろ」に変わっているため順次切り替わっていくことになり
ます。



平岸支店

Q12 当年度の熊や鹿などの有害鳥獣による被害状況と対策や駆除実績を詳しく説明していただきたい。また、有害鳥獣被害の対策強化やジビエ活用にも取り組んでいただきたい。
(南、白石、豊平、手稲、石狩八幡地区)

A 今年度、特に札幌市の南地区などで熊の被害が多発し、果樹農家を中心に被害が出ております。農業被害額は直近の令和6年度で約5,500万円
(鳥獣対策専門部会公表値)となっております。

ります。当年の捕獲状況は、鹿が163頭、アライグマが376頭と前年に比べ大幅に増加しており、熊の捕獲数は10頭と過去にない状況です。

Q13 札幌市における有害鳥獣対策にJA対応はどのように関わっているのでしょうか？また、対策の一環としてJA職員による猟銃所持を行なう考えはないのでしょうか？
(豊平、平岸地区)

A 札幌市において鳥獣対策専門部会が設置され、JAも構成員として参加しております。これに基づき、組合員からの農業被害の申し出を受け、市と猟友会が連携して駆除対応を行なっております。また、熊の箱罟等の一部はJAが所有しており、猟友会の依頼により設置しております。

現時点で職員が猟銃を所持して駆除を行なう予定はありません。行政の方針や被害状況に応じて検討が必要となる可能性はありますが、現在の基本的な取り組みは、協議会を主体とした行政、猟友会、JAの連携です。

Q14 当JAにおけるアライグマの捕獲檻の保有数は？
(南地区)

A 捕獲檻については、定期的に数量が不足しているとのこと意見や踏板式罟のご要望があったことから、今年度30基新たに追加購入しております。また、各経済店にて「南経済店…63基」「清田経済店…26基」「手稲経済店…28基」「篠路経済店…25基」「丘珠資材センター…14基」の合計156基を保有しております。

Q15 JAで管理している熊の捕獲檻の数を教えていただきたい。また、そのうち組立式はどのくらいあるのでしょうか？設置作業の負担を考慮して組立式を増やしていただきたい。
(南地区)

A JAさっぽろで3基保有しております。現在、行政・JAでも組立式の檻は保有しておりませんが、今後更新予定もあることから、行政や特に猟友会のご意見を踏まえ検討してまいります。

プライバシーに関するご質問や、過去同様の質問につきましては割愛させていただきますのでご了承ください。



SAPPORO PRIDE

都市農業の誇り、未来へのバトン

令和7年11月10日(月)、札幌パークホテルにて「令和7年度 道南・後志・石狩地区 合同JA青年部研修会」が開催されました。

約200名の参加者が集まる中、JAさっぽろ青年部を代表して武田 慈喜副部長が登壇。これまでの青年部活動の実績とともに、農業の未来へかける熱い想いを発表しました。今回は、その発表内容を詳しくお届けします。

札幌という大都市の片隅で、私たちJAさっぽろ青年部は、今日も土に触れ、野菜を育てています。「農業」と聞くと、広大な畑などの風景を思い浮かべる方が多いかもしれませんが、高層ビルや賑やかな街並みのイメージが強い札幌では「札幌には農業があるの?」と驚かれることもしばしばです。しかし、都市の喧騒のすぐそばで、私たちは確かに土を耕し、野菜を育てています。季節の移ろいを肌で感じながら毎日畑に立つ——それが、私たちの原点であり、熱い誇りです。

都市農業には、農地の減少、高齢化、後継者不足、そして消費者との距離感といった都市ならではの課題や制約が付きものです。こうした現実に向き合いながらも、私たちは札幌の大地に確かな根を張り、農業の灯を絶やさぬよう日々努力を重ねています。都市の中で農業を続けることは決して簡単なことではありませんが、だからこそ「札幌で農業を続ける意味」を強く意識し、誇りを持って取り組んでいます。

その熱い想いを形にするため、青年部では3年前からアウトドアブランドのモンベル様とコラボレーションし、オリジナルTシャツを作成しています。そこに刻んだのは、カッコいい言葉でも流行りのフレーズでもなく、ただただ伝えたい気持ちでした。それは



「サッポロプライド」。

札幌の大地に根を張り、風を感じ、仲間と共に歩む——そんな私たちの誇りと願いを、シンブルな言葉に託しました。Tシャツを着て畑に立つと、仲間たちの想いが背中を押してくれるような気がします。仲間と同じ夢を持ち、同じ服を着て、同じ目標に向かって泥まみれになる。それはまさに、私たちが失うことのない「青春」の熱量そのものです。

今、私たち青年部が大切にしているのは、ただ野菜を作るだけでなく、その背景や想いをしっかりと伝え、消費者の皆さまと心で繋がることです。畑での努力や工夫、仲間との支え合い、そして札幌の大地への感謝——そうし

たすべてを含めて、日々農業に向き合っています。

「食べてもらうまでが農業」…この言葉は、私たちの覚悟そのものです。作物を育てるだけで終わらせず、消費者の食卓に届き、誰かの「美味しい」という声を聞くまでが、私たちの仕事です。

都市農業の最大の強みは、「採れたて」を「すぐに」届けられる鮮度と、生産者と消費者が直接対話できる距離の近さです。この優位性を最大限に活かすため、私たちは流通の工夫だけでなく、感動を共有する連携に力を注いでいます。

2年前からは、スープカレー専門店「奥芝商店」様とのコラボレーションにも精力的に取り組み、札幌近郊の野菜を10種類使った「プレミアム野菜チーズカレー」が誕生しました。奥芝



商店のスタッフさんは実際に畑に足を運び、土の匂いや野菜の手触りを感じてくれました。何より感動したのは、奥芝商店の皆さんが私たちの農産物を本当に大切に料理してくださる姿です。お互いに「サツコロプライド」を大切にしている——そんな気持ちが自然と伝わってきました。限定販売は連日完売。「札幌の野菜って、こんなに美味しいんだね」と、たくさんの声が届き、畑から食卓まで、想いが繋がった瞬間は大きな自信と励みになりました。また、若い世代にも農業の魅力を伝えたいと、「サツコレ」(札幌コレクション)と連携した「SATSU♡VEGE」プロジェクトにも挑戦しました。モデルさんたちが実際に圃場をめぐり、土や作物に触れ、農産物が育てられる過程を体感してくれました。ファッションと食、そして農業が繋がる新しい取り組みは、農業が持つ「かっこよさ」や「ライフスタイル」としての魅力

再発見する機会となりました。

そして、毎年秋、大通公園を賑わせる「さっぽろオータムフェスト」は、私たち青年部にとって一年間の努力を市民の皆さまに直接届ける、最も重要な舞台です。私たちは、JA職員や離農した仲間も巻き込み、全員が一体となってブースに立ちます。特に、離農した生産者や、札幌ならではの特産品である40歳を超えた部員さんが積極的に手伝ってくれるのが、札幌の青年部の大きな強みです。お客さまから直接「美味しかったよ」「来年も楽しみにしてるね」と声をかけてもらえる瞬間は、畑での孤独な作業が一瞬で報われる、最高の瞬間です。この温かな交流が、単なる青年部の活動を超えて、「サツコロの町おこし」に繋がっている、そ



んなワクワクした気持ちになります。

今年のオータムフェストでは、食のパートナーである奥芝商店様とのコラボレーションをさらに進化させ、「札幌黄」を使用した特製「生力レーパン」を販売しました。さらに、この販売に合わせて「学生応援プロジェクト」を立ち上げ、北海道芸術デザイン専門学校(bisen)の有志学生10名に、生力レーパンのシールと野菜購入者の紙袋のデザインを依頼しました。青年部員が、札幌の農業への熱い想いや生産者の哲学を学生たちに直接伝え、学生たちはその心を受け止め、思い思いに創造性溢れる作品を描き出してくれました。

出来上がったデザインはどれも若々



しく、情熱に満ちており、その美しさに私たちは心から感動しました。実際にオータムフェストで商品を手に取ってくださったお客さまからも、「デザインを通して私たちの想いが伝わったと、大きな喜びの声が寄せられました。こうした多分野のプロフェッショナルや次世代を巻き込む一連の取り組みは、個人の生産者でも、生産部会でもなく、組織的な熱量を持つ青年部だからこそ成し遂げられた、地域の未来に繋がる大きな成果だと確信しています。

さらに、未来の子どもたちに、農業の魅力や食の大切さを伝えることは、私たちの使命です。特に力を入れているのが、地元の支援学校や小学校での「食育授業」です。私たちがこの活動を始めた背景には、札幌市内にあら

が、道立の学校に通う子どもたちが「札幌の野菜を食べられていない」という現状を知ったことがありました。

同じ時代を生きる子どもたちが、地元の恵みを平等に受け取れないのはおかしい。地元の農家として、美味しい安心な野菜を届けたいという強い使命感を抱きました。授業の際には、私たちが持ち込む、ピーツやニンニク、小さい玉ねぎといった、スーパーでは見慣れない色や形の野菜に子どもたちは目を輝かせます。私たちは、ただ「野菜を食べよう」と伝えるのではなく、

「この野菜はね、札幌で僕が育てているんだよ」「ピーツって知ってる？これはね、朝4時から僕が収穫したんだよ」と、まるで物語を語るように、畑の熱量をそのまま伝えます。

この伝え方によって、子どもたちとの間に、はじめての出会いなのに心が繋がるような確かな手応えを感じます。そしてその当日、子どもたちに提供されるのは、私たち青年部の部員の仲間が育てた野菜をふんだんに使った特別メニューです。子どもたちが「この野菜、あの農家のお兄さんたちが作ったやつだ！」と、興奮気味に食べてくれる姿は、私たちにとって忘れられない感動です。

「食べ物は体を作り、食べ方は心を作る」



私たちが大事にしているこの言葉のとおり、安心な地元野菜を届けるだけでなく、生産者としての想いを伝えながら、子どもたちの心と体を養い、食に対する感謝の気持ちを育んでいってもらえたら、こんなに嬉しいことはないと感じています。食べ物には感謝の気持ちが込められていること——そんな「いのちをいただく」という食の本質を伝える食育の時間が、次の世代への大切なバトンになることを強く願っています。

そして、JAグループ内の大切な仲間である女性部との連携も深めています。女性部が企画した「JAさっぽろの多彩な農業を知る現地研修バスツアー」では、生産者と消費者(組合員)

という立場でお互いの活動を応援し合う、協同組合の理念を実践する場となりました。このJAグループの縦と横の繋がりがこそが、都市という特殊な環境下で農業を継続できる、強靱なコミュニティの基盤なのです。

札幌の農業は、決して派手ではありません。けれど、朝早くから畑に立ち、土の感触を確かめ、天気や気温に一喜一憂しながら、ひとつひとつの野菜を大切に育てています。都市ならではの課題にも直面しますが、それでもこの土地で農業を続ける意味を、私は強く信じています。札幌の大地と共に歩み、地域の皆さまと繋がりながら、これからの農業の未来を切り拓いていきたい——その想いは、これからも変わることはありません。

私たちJAさっぽろ青年部は、これからも「食べてもらうまでが農業」という想いを胸に、仲間と共に歩み続けます。そして私は、札幌の農家であることを、心から、そして熱く誇りに思います。これからも「サッポロプライド」を胸に、札幌の大地と共に、未来へのバトンをしっかりと繋いでいきます。

JAさっぽろ青年部本部副部長

武田 慈喜

10/20(月)
～23(木)

女性部・青色申告会・資産管理部会西町支部 沖縄県へ三部会合同研修旅行

女性部西町支部(松井 かよ子支部長)と青色申告会西町支部(齊藤 信明支部長)・資産管理部会西町支部(三本菅 良治支部長)では、沖縄本島・宮古島へ3泊4日の研修旅行を三部会合同で実施し、部員・部会員15名と職員1名が参加しました。

今回は、今年の夏に開園した、沖縄の自然を体感できるテーマパーク「ジャングリア沖縄」や宮古島のビーチなどの景色を楽しむ予定でしたが、当日はあいにくの雨続き。いくつか予定を変更しながらの旅行となりました。そんな中でも、地元の方が訪れるスーパ―や海底公園を散策。いつもとは少し違う沖縄の魅力を味わうことができました。

三本菅支部長は「予定とは違う行程とはなったが、雨だからこそ感じた沖縄の魅力もあり、参加者同士の交流を多く持てて良かった」とコメント。予定変更もありましたが、参加者の皆さまにとって思い出深く、有意義な研修旅行となりました。

(北林特派員)



ホテルブリーズバイマリーナの前で記念撮影。

10/21(火)

青年部琴似支部 NHK札幌放送局で 秋の見学会を実施

青年部琴似支部(漆崎 学支部長)では秋の見学会を実施し、部員7名が参加しました。

訪問先は、札幌市中央区にあるNHK札幌放送局。放送局内のスタジオを見学し、カメラの操作も体験しました。NHKスタッフの方に案内していただき、実際に番組が制作される現場を間近で見学。カメラや照明などの放送機材について説明を受けました。さらに、番組制作の流れや放送に至るまでの準備について伺い、カメラ操作体験では実際に使用されていたカメラを操作し、収録の大変さを実感。普段はなかなか知ることのできない、放送の裏側を学ぶことができました。

昼食は焼肉徳寿しんら亭でとり、終始和やかな雰囲気の中、見学会は終了。普段は触れることのない放送局の現場を体験し、参加者同士の交流も深まる有意義な見学会となりました。

(萩澤特派員)



カムイサウルスの着ぐるみを着たどーもくと記念撮影。



2020年から放送されている情報番組『北海道道』のスタジオで記念撮影。

10/24(金)

青色申告会・資産管理部会中央支部 赤平・砂川方面へ合同日帰り研修旅行

青色申告会中央支部(宮崎 龍浩支部長)・資産管理部会中央支部(末原隆一支部長)では、赤平・砂川方面へ日帰り合同研修会を実施し、部会員5名が参加しました。

最初に「赤平市炭鉱遺産ガイドンス施設」を訪れ、旧住友赤平炭鉱立坑槽のヤード内部を見学。ガイドの方から、採炭当時の日本経済に関して、戦前戦後の状況や、石油自由化・為替変動相場制導入によって国産石炭の需要が減少するまでの歴史など、大変興味深いお話を伺いました。さらに、当時の安全対策や炭鉱町の賑わいの様子についてもお話しいただき、ヤード内部設備のスケールの大きさにも感嘆し、あつという間の90分でした。

午後は、「たきかわスカイミュージアム(航空動態博物館)」を訪問。その後、美唄市出身の彫刻家・安田 侃の作品が飾られている「安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄」を見学し、帰路につきました。両部会の親交を深めることができ、非常に充実した合同研修会となりました。
(土田特派員)



長年この場所で働いていた元炭鉱マンの方から説明を受ける一行。



1938年に開鉱し、かつて「東洋一」と謳われた旧住友赤平炭鉱立坑槽を見学。

11/6(木)

畜産部会 部会員の圃場や「とれのさと」で 視察研修会

畜産部会(萩中 昭夫部会長)では、令和7年度視察研修会を実施し、部会員8名が参加しました。最初に訪れたのは、今年部会に加入した池端優さんの圃場。部会員と池端さんの間で活発な質疑応答が行なわれました。「直接質問することができたので、とても勉強になった」との声もあり、現場ならではの学びが得られました。

続いて、JAさつぽろが所有する生産者直売所「地物市場とれのさと」を訪問。これまで訪れたことがないという方も多く、初冬の寒い中でも多くの来店者がいることに驚いていました。

最後に、米麦乾燥調製貯蔵施設を見学。PC管理による業務の効率化や新施設の機能・概要について、実際に施設内を見て回りながら説明を受けました。

興味深い説明に、部会員の皆さまからは絶えず質問が飛び交い、非常に有意義な視察研修会となりました。

(中川特派員)



地物市場とれのさとにて記念撮影。

11/7(金)

青年部白石支部

札幌を再認識する 研修旅行

青年部白石支部（飯島 則勝支部長）では、「札幌再認識」というテーマで日帰り研修を実施し、部員3名と職員2名が参加しました。

まず、西区にあるお菓子のテーマパーク「白い恋人パーク」を訪問。次に、今年7月にリニューアルオープンした国指定重要文化財「北海道庁赤れんが庁舎（旧本庁舎）」を訪れました。さらに、札幌のランドマークである「札幌時計台」と「さっぽろテレビ塔」へ足を運び、最後には moyuk SAPPORO 内にある水族館「AOAOSAPORO」を見学。新しくなった赤れんが庁舎や街中の水族館という先進的な施設を視察したことで、札幌に吹き込む新しい風を感じることができました。

新しくなる札幌の街並みに感動を覚える一方で、建物が新しくなっていく中にも、しっかりと刻まれた歴史の息づかいや時間の流れを感じることができました。先人が築き上げたものを活かしながら新しいものを創造することの大切さに改めて思いを馳せる研修旅行となりました。

（福井特派員）



白い恋人パークで記念撮影。



札幌時計台の建物内にあるクラーク博士像と共に。

11/7(金)

青年部琴似支部

毎年恒例のボウリング大会兼忘年会

青年部琴似支部（漆崎 学支部長）では、毎年恒例の「ボウリング大会兼忘年会」を開催し、部員3名と職員10名が参加しました。

今年も青年部主催で開催されたこの行事。ボウリング大会は G i G O B O W L ノルベサで行なわれました。青年部員と職員による白熱した大熱戦が2ゲームにわたって繰り広げられ、会場は絶えず笑顔と歓声に包まれました。

ボウリング大会の後には、ノルベサからほど近くにある飲食店「活菜旬魚 さんかい南3条店」へと会場を移し、忘年会を開催。ボウリング大会の表彰式も執り行なわれ、個人賞が発表されるところにも、受賞者には豪華景品が贈られました。

参加者一同で食事を楽しみながら1年の活動を振り返ることができ、非常に和やかな忘年会となりました。

（萩澤特派員）



忘年会の会場で記念撮影。

11/11(火)

女性部篠路支部

毎年恒例の味噌作り講習会を実施

女性部篠路支部（嶋 知子支部長）では、サッポロさとらんどにて毎年恒例の味噌作り講習会を実施し、部員6名と職員4名が参加しました。

この講習会は20年続く伝統行事。部員と職員が協力して一から味噌を仕込みます。今年も、手慣れた参加者の方から指示を受けながら、全員で手を動かして味噌玉を仕上げました。

大豆を蒸している間に、毎年恒例の昼食メニューとなっていた豚汁も並行して調理。野菜を切ったり、鍋にお湯を沸かし、りと、作業が自然と役割分担され、和やかな雰囲気の中で準備が進んでいきました。

豚汁に使われたのは、前年の講習会で仕込んだ味噌。深いコクと優しい風味が体に染み渡り、自分たちで作った味噌の美味しさを改めて感じることができました。今年仕込んだ味噌も、来年どんな味に育つのか楽しみです。

協力して作ること達成感があり、食の大切さや手作りの温かさを改めて感じた講習会となりました。（真鍋特派員）



部員と職員が協力して味噌を仕込み、とても充実した時間になりました。

11/14(金)

青年部篠路支部

営農の技術向上を図る「練成会」実施

青年部篠路支部（武田慈喜支部長）では、室蘭・伊達方面への日帰り研修旅行を実施し、部員4名と職員3名が参加しました。

まず、室蘭市にある「北海道肥料株式会社」を訪問。ここでは、肥効の持続や窒素利用率の向上、環境負荷の低減に役立つ「硝酸化成抑制剤」について講義を受けた後、製造現場を見学。製品知識だけでなく、原料の選定から品質管理、出荷に至るまでの一連の工程についても学ぶことができました。

続いて、伊達市でナスを栽培している生産者の圃場を訪問。ここでは、光・温度・湿度・CO₂濃度・換気などを作物にとって最適な状態に自動調整する「環境制御型農業」を実践しており、作物の生育状態をデータで把握して、ハウス内の環境を自動的に調整することで、年間を通じた安定生産を可能にしています。露地栽培では難しい計画的な生産や作業の省力化、農薬の削減による環境負荷の低減など、多くのメリットがあることを学ぶことができ、参加した部員からは、環境制御型農業の可能性について大変興味深いとの声が聞かれました。今回の研修を通じて、最新の肥料技術や先進的な農業手法について理解を深めることができ、今後の営農活動に役立つ有意義な機会となりました。

（日下特派員・須田特派員）



右：担当者の分かりやすい説明から、製品づくりに対する強い責任感とこだわりを感じました。

左：センサーやICT技術によって温度・湿度・CO₂を細かく調整する環境制御型農業に、皆さま興味津々でした。

11/17(月)
~18(火)

女性部豊平支部

函館方面へ宿泊研修旅行

女性部豊平支部(吉田 朝子支部長)では、函館方面へ1泊2日の研修旅行を実施し、部員8名と職員2名が参加しました。

初日の朝はあいにくの天気でしたが、午後からは好天に恵まれ、旅行日和に。昼食は、白老町にある「白老牛生産牧場ファームレストラン ウエムラ・ビヨンド」にて白老牛のハンバーグを堪能。午後は、函館市にある「金森赤レンガ倉庫」を訪れ、函館限定商品などを買収求めました。

2日目は、函館朝市にてお買い物をした後、五稜郭タワーの展望フロアより函館を一望。

吉田支部長は「今年も宿泊を伴う研修旅行で、美味しい料理やお買い物を楽しみ、函館を満喫することができた。何よりもみんなが笑顔で楽しめたことが一番。今後も研修旅行を通して親睦を図りたい」と話していました。(川瀬特派員)



金森赤レンガ倉庫にて函館観光イメージキャラクター「エキゾーク」と共に記念撮影。

11/23(日)

北海道神宮新嘗祭に宝船奉献

豊穣と繁栄の一年へ願いを込めて

JAさっぽろでは、勤労感謝の日(11月23日)に北海道神宮で行なわれた「新嘗祭・新穀勤労感謝祭」に合わせ、今年も2艘の宝船を奉献しました。

奉献されたのは、豊穣を願う「豊作丸」と繁栄を願う「繁栄丸」。どちらも木製で、長さ1.8メートル、幅57センチ、高さ43センチと立派な大きさ。これらの船は、長年にわたって大切に使用されてきました。

今年は、中央支店職員を中心とした4名の職員が装飾を担当。組合員が丹精込めて育てたキャベツ「札幌大球」や玉ねぎ、稲穂、白菜など、様々な農産物をひとつひとつ丁寧に配置。野菜の配置や彩りにも工夫を凝らし、見た目にも美しい宝船に仕上げました。

当日は、神宮本殿入口の両脇に2艘の宝船が設置され、足を止めて色鮮やかな宝船を写真に収める参拝客が多く見受けられました。



JAさっぽろの農作物を載せた「豊作丸」。左から、宮下議員、軽部組合長、浦島中央統括支店長。

12/2(火)

女性部厚別支部

支部創立70周年を記念する 座談会を開催

女性部厚別支部(粟井 真由美支部長)では、70周年記念座談会を開催し、部員39名が参加しました。

当日は、役員が朝から札幌伝統野菜を使った豚汁を調理。記念弁当と手作りの漬物も振る舞われました。ハンドベルサークルの演奏やビンゴ大会で会場は大盛り上がり。さらに、過去20年分の写真や歴代支部長のコメントが収録された記念誌も制作。若かりし頃の集合写真や、「女性の集い」で女装した歴代事務局や支店長の写真を見ながら思い出話に花を咲かせました。座談会のテーマは「支部役員のブロック制導入についての検討」。時代の変化や部員数減少といった現状を受け、5年、10年先を見据えた役員体制の必要性が毎年指摘されており、役員会で協議を重ねた上で総会の審議事項に挙げる予定です。

粟井支部長は「このような節目の年に支部長という大役を任せられ、不安に思いましたが、周りの方々に支えてもらい、無事に70周年記念行事を開催できました。ご協力いただいた皆さまに感謝申し上げます。この歴史深い女性部厚別支部のますますの発展のため助力となるよう、これからも努力してまいります」と話していました。(須澤特派員)



昭和30年に「厚別婦人部」として発足してから、今年で70年を迎えた女性部厚別支部。

12/12(金)

青年部本部 支部対抗親睦ボウリング大会

厚別支部が優勝！ 10支部が一堂に会し、交流を深める

青年部本部(大畑 一郎部長)では、GiGO BOWLノルベサにて、支部対抗親睦ボウリング大会兼忘年会を開催し、ボウリング大会には部員31名と事務局8名の計39名、忘年会には部員37名と事務局14名の計51名が参加しました。ストライクやスペアが決まると、ハイタッチや拍手でたたえ合いながら、白熱したゲームが繰り広げられました。ボウリング大会終了後は「サッポロノルベサビール園」に会場を移し、表彰式を兼ねた忘年会を開催。ジンギスカンを食べながら談笑し、交流を深めました。

団体賞

- 優勝 厚別支部 平均 Av.132.38
- 準優勝 平岸支部 平均 Av.130.75
- 第3位 白石支部 平均 Av.130.13

個人賞

- 優勝 北札幌支部 坂東 拓也さん スコア 327
- 準優勝 琴似支部 萩中 昭夫さん スコア 316
- 第3位 平岸支部 山田 弘邦さん スコア 310
- ハイゲーム賞 厚別支部 小林 智行さん スコア 181



個人優勝は北札幌支部の坂東 拓也さん。



優勝した厚別支部の皆さま。2ゲームのスコア平均で競い合い、準優勝の平岸支部とはわずか1.63点差の大接戦となりました。

理事会だより

第8回定例理事会

令和7年11月28日(金)午後1時00分より、本店3階役員会議室において、定例理事会が開催された。

●監事会報告事項

1、令和7年度 仮決算監事監査報告

●協議事項

1、令和7年度 年末手当(賞与)の支給について

令和7年度事業実績見込みおよび令和7年度年末手当は2・1ヵ月分として12月10日に支給することが説明され、協議後、可決決定。

2、『就業規程』の一部改正について

北札幌支店店外ATMの稼働時間の変更に係る所要の整備である旨が説明され、可決決定。

●報告事項

1、再発防止策における取組状況報告

2、令和7年度1統括支店1協同活動実施報告

3、JAさつぽろ半期ディスクロージャーについて

4、マネロリスク管理に係る取組状況(上期)について

5、月寒中央ビル駐車場改修工事の竣工について

6、北海道農業信用基金協会に対する増資について

7、農作物作況報告

8、10月末財務状況報告

9、10月末組合員加入・脱退状況および未済持分譲渡報告

10、11月の動静と12月の予定について

(閉会・午後2時47分)

第9回定例理事会

令和7年12月29日(月)午後2時00分より、本店3階役員会議室において、定例理事会が開催された。

●協議事項

1、令和7年度 仮決算監事監査回答書について

令和7年11月4日から11月7日までに実施された令和7年度定期仮決算監査および令和7年9月30日、10月1日に行なわれた経済部(丘珠資材センター・各経済店)・営農販売部(石狩経済店・とれのさと・給油所)棚卸仮決算監査での「改善願いたい事項」に対する回答(案)が説明され、可決決定。

2、令和8年 理事・監事報酬の役員報酬審議会への諮問について

令和8年7月から翌年6月までの理事報酬総額および監事報酬総額は、理事が7,370万円の範囲内、監事が1,820万円の範囲内とする金額で諮問することが説明され、可決決定。

3、国税局差押に係る出資金の減口について

准組合員(1名)に対する国税局からの一般出資金差押通知に伴う出資金の減口内容が説明され、協議後、可決決定。

4、令和8年度 肥料引取奨励金について

組合員の奨励施策の一環とする肥料の取りまとめ分に限り、店頭引取をされた組合員に対する奨励内容が説明され、可決決定。

●報告事項

1、地区別懇談会での質問・意見等の報告

2、役員推薦委員・広域役員選考委員・役員報酬審議委員の選任結果について

3、総代および各部会長への常勤理事による訪問活動について

4、農業協同組合経営体質強化指導事業に係る重点監視農協の選定解除について

5、札幌市農業委員被推薦者の各地区からの選出結果について

6、地区運営協力委員の就任時における地区定数について

7、地公体融資について

8、令和7年度 第4四半期余裕金等運用計

JAさっぽろDATA 令和7年12月末業務実績 令和7年11月末業務実績

組合員数	正組合員	3,699名	3,705名
	准組合員	34,725名	34,567名
合 計		38,424名	38,272名
出資金残高		72億6千7百万円	72億5千8百万円
販売取扱高		42億7百万円	37億4百万円
購買供給高		23億2千9百万円	20億7千5百万円
貯金残高		3,700億5千7百万円	3,683億8千6百万円
融資残高		1,127億6千万円	1,114億5千万円
共済保有高		6,272億4千2百万円	6,288億3千6百万円
施設建設取扱高		8千9百万円	0円
管理受託戸数		4,732戸	4,756戸

- 画額および運用方針について
- 9、令和7年度 肥料引取奨励金の交付について
- 10、令和5年産米穀共同計算の結果について
- 11、農作物状況報告
- 12、11月末財務状況報告
- 13、11月末組合員加入・脱退状況および未
済持分譲渡報告
- 14、12月の動静と1月の予定について
(閉会・午後3時45分)

苗物市の開催について(ご案内)

例年実施しております苗物市につきまして、令和8年度も左記のとおり開催いたします。なお、今年度は、丘珠資材センター会場のみでの開催とし、手稲経済店での苗物市は実施いたしませんので、あらかじめご了承ください。

開催期間

令和8年5月15日(金)～19日(火)〈5日間〉
各日9時30分～15時00分

開催場所

札幌市東区丘珠町499番地23
玉葱選果センター施設内および駐車場

内容

- ・野菜苗の販売(接木苗、自根苗各種取り揃えております)
- ・肥料、小農具の展示・販売

家庭菜園や市民農園をご利用の皆さまに役立つ商品も多数取り揃えております。皆さまのご来場をお待ちしております。



My best shot



Photo by 曾我 孝博

2020年からフリーランスのフォトグラファーとして主に札幌市内で活動。2022年から「虹の大樹」表紙と巻頭写真の撮影を担当しています。

それぞれ役割を持ち、みんなで協力をし、みんなで一つ一つ丁寧に収穫し、みんなできれいに商品として完成させる。それも、笑い声や笑顔を交えながら。その光景を見て思いました。「このほうれん草は絶対おいしいに決まっている！」と。

